2016年4月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第471号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

絵本で世界平和 ―☆★☆

大人と絵本の関わり方は興味深い世界

文・絵本セラピスト協会代表　岡田達信

絵本はこころの処方箋／作：岡田達信／発行：瑞雲舎／定価（本体価格1200円＋税）／ISBN：9784916016911

絵本はこころの架け橋　大人のための絵本セラピー２／著：岡田達信／発行：瑞雲舎／定価（本体価格1200円＋税）／ISBN：9784907613099

大人が絵本を読むと起きること

「絵本セラピー」という言葉を聞いてどんなイメージを持ちますか。

「絵本を読んでもらって癒されるのだろう」ほとんどの人はそんな想像をするのではないでしょうか。そう思うのも仕方ありません。なぜなら私自身もこの活動を始めた当初はその程度の認識だったからです。実際に大人に絵本を読んでいると、そんな単純なことではありませんでした。結果的に本を2冊書くことになったぐらい、大人と絵本の関わり方は興味深い世界だったのです。さて大人が絵本を読むとどんな事が起きるのでしょう。

絵本を読んでもらうと何らかの感想を持ちます。その絵本から感じることはその人にとって自然に出てきた当たり前の感覚です。ところが同じ絵本を読んでも別の人からは全く違う視点の感想が出てきます。例えば髪の毛がボサボサの子が主人公の絵本を読んだとします。それに対して「だらしない」「親がもっとしっかりすべき」「おおらかでよい」「うちの次女みたい」など大人は十人十色の感想を出してきます。子供たちからは「親がもっとしっかりすべき」などという感想は決して出てきません。なぜなら子供たちはそんな価値観を持っていないからです。

つまり大人が絵本に対して語る感想には、その人の価値観や考え方などの内面が現れていることが多いのです。大人と子供では絵本の読み方がかなり違うことが分かりました。

自分に気づき視野が広がる

人は自分が感じたことと似たようなことを他の人も感じているはずだと無意識に思っています。自分の感覚は「普通」であると。ところが、感じたことを実際に出し合ってみると、思いがけないほどさまざまな視点が出ます。つまり誰かにとっての「普通」は、他の人にとっては思いもよらない視点かもしれないのです。

「だらしない」という感想の裏には「こうあるべき」という価値観が隠れているかもしれません。ところが同じものを見て「おおらか」という受け取り方をする人がいるのです。驚きはしますが自分と全く異なる視点であっても、絵本の感想に正解などないので「へーなるほど」と受け取ることができて対立は生じません。むしろ違いに目を向けたとき、無意識に持っている自分の価値観や出来事の受け取り方の癖などに自然に気づきます。つまり他人の話を聞きながら自分を発見する感覚です。なぜなら同じ絵本を同じ場所で同じ声で読んでもらっているのに感じる事が全く違うのは、聞き手の「受け取りかたの違い」に起因することが明らかだからです。

もし無意識の癖などを他人から指摘されると反発を感じるものですが、自分で気づくので抵抗もなく受け入れることが出来ます。もちろん絵本は何かを「気づかせよう」として描かれているわけではなく、まるでカウンセラーのように黙って寄り添ってくれます。

人と人をつなぐ場

自分にはなかった視点や、全く違う価値観と出会い受け入れることで視野も広がります。絵本を読んで「感じた

こと」という内面を素直に表現し、自分に気づき、視野が広がる。これは心理療法やカウンセリングが目指しているゴールと似ています。悩みの多くは内面を表現できていないことや、価値観や視点が固定化されて自分の見ている世界を絶対化してしまうことに起因します。その無意識に固定化されたものに対して様々なアプローチをしているのが心理療法やカウンセリングだと言えるかもしれません。

「絵本セラピー」では絵本をきっかけに感じたことや考えたことを出し合うことで自然に自分のペースで内面に向き合うことができます。また正解のない世界で安心して自分の感じたことを表現でき、相手の価値観も受け取れるのでコミュニケーションが円滑に進み、視野が広がります。相手の価値観を受け取れるということは相手の立場に立てるという事にもつながります。大人たちに絵本を読んでいると初対面の人同士でもすぐに仲良くなるのですが、その理由はこんなところにありました。「絵本で人と人をつなごう」それが絵本セラピーのテーマの一つになっています。

絵本は子供のもの

絵本セラピーでは子供のために描かれた絵本を使います。「それは作者の意図した本来の絵本の使い方ではない」とお叱りを受けることもあります。確かにそうかもしれません。ただ子供たちは自分で絵本に出会うことが出来ません。絵本を選ぶのも買うのも基本的には大人なのです。絵本セラピーは大人が絵本の価値を再発見する場にもなっています。絵本にあまり興味の無かった、あるいは絵本を「子供だまし」と見下していた大人が絵本セラピーをきっかけに絵本を見直して価値を認めてくれれば、その先に居る子供たちにも絵本が届くと思うのです。子供たちが絵本で幸せな時間を過ごせるようにと祈りを込めて活動しています。

絵本セラピーの本2冊

2011年刊の『絵本はこころの処方箋』では大人が絵本を通して自分に出会う面白さを私自身の体験を中心に書きました。それから5年間、様々な分野の方から助言を頂いたり、思いもよらない大人の反応に何度も驚かされたりしながら絵本セラピーの原理が明確になっていきました。2011年当時はまだ言語化できていなかった部分を含め、絵本セラピーの具体的やり方を新刊『絵本はこころの架け橋』に書きました。実際の参加型プログラムに沿って書き進めていますので、誌上体験を楽しんで頂くことが出来ますし、誰にでもプログラムが実践できる指南書にもなっています。今まで絵本に全く縁のなかった人たちが、本書をきっかけに絵本に目を向けてもらえると嬉しいです。

正しさの先に平和はあるの？

絵本セラピーの体験を通して学んだのは、自分に見えている世界と、他人が見ている世界はかなり違っているけれど、どちらかが「正しい」わけではなくただ「違う」ということです。

しかし人は「自分の見ている世界が正しい」と思ってしまいます。自分が正しいと思って相手に接すると対立が生まれます。なぜなら相手も「自分の見ている世界が正しい」と信じているからです。「同じ体験をしているのに一人一人みんな違う世界が見えている」この事実を実感として受け入れると「信じられない！普通は～でしょう」という思いが減ります。「違う世界が見えているのだから、同じ反応するはずない」と最初から認められれば人間関係のストレスはずいぶん減るのではないでしょうか。

絵本をはさんだ正解のない安全な「場」を作れば、感じたこと考えたことを出し合って、違う価値観や世界観に触れることができます。その価値観や世界観をお互いが受け入れ認め合うことで、視野が広がり心も安定していくのだと思います。そんなお互いを認め合える居場所が社会の中に広がっていけば嬉しいです。

絵本という架け橋で大人も子供もみんながつながれば、きっと平和な世界になると信じています。

＊

（おかだ　たつのぶ／絵本セラピスト協会代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

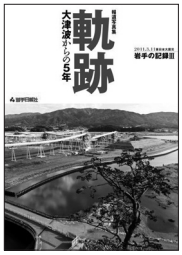
『絵本はこころの架け橋　ー大人のための絵本セラピー2』●岡田達信著

りんごの木を見上げる小さなねずみ。鳥やサルが楽々とりんごを取って行くのを見て、翼があったら、木登りができたら、と羨むばかり。だけど最後にやって来たあしかと力を合わせてりんごを取ることができたのだった。これは『りんごがたべたいねずみくん』（ポプラ社）という絵本のあらすじ。絵本というと子どものものというイメージが強いが、大人が読むとその人の価値観や考え方が現れ、実に多様な感想が返って来る。前述の絵本で言うと「協力すると色々なことが可能」「どうして他の動物に頼まないのか」「あしかみたいに困っている人を助けたい」など様々で、互いの価値観や世界観を認め合うことで視野が広がっていく。

絵本のソムリエの著者が考案した絵本セラピーのプログラムが誌上体験として楽しめる。絵本はまさに人と人をつなぐ架け橋であり、大人こそ絵本が必要かもしれない。「大人の絵本箱」として50冊のブックガイドを掲載

◆1296円・A5判・95頁・**瑞雲舎**・東京・2016/2刊・ISBN・9784907613099

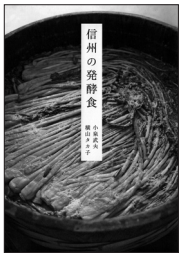
『報道写真集　軌跡　大津波からの５年』●岩手日報社編



５年前の東日本大震災で岩手県では甚大な津波被害が発生しました。それからの月日を地元紙である岩手日報社がまとめたのが本書です。震災直後の瓦礫の散乱する街並みの写真や、亡くなった方への祈りを捧げる写真からは、震災で失われたものの大きさを思わずにはいられません。それでもそんな状況の中から被災地が少しずつ復興してゆく様子が見えてきます。ようやく授業を再開した学校、復旧した三陸鉄道、久しぶりの祭り。写真に写る人たちの笑顔が印象的です。思うように復興が進んでいかないという現実に直面している地域もありますが、震災後に得たつながりで乗り越えようと奮闘しています。絶望的な状況の中からでも希望を生み出して、当たり前のように復興に乗り出していく、そうした人間の日々の営みの力強さを思わずにはいられません。この力強さと５年前に感じたはずの恐れや怒り、それらを記憶に刻みつけることも読者には求められているのかもしれません。

◆ 1620円・Ａ４判・184頁・**岩手日報社**・岩手・2016/1刊・ISBN・9784872014167

『信州の発酵食』●小泉武夫／横山タカ子著

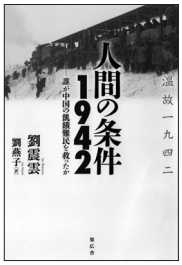


テレビでもおなじみの発酵学者、小泉武夫氏は、本書の冒頭で発酵とは何かという原理からわかりやすく解説してくれるのだが、前世紀から残されてきた課題は発酵によって解決するとまで述べている。産業革命やIT革命に匹敵するような「発酵革命」が今起きようとしている、と。また、発酵食である味噌が、放射性物質を体外に排出する力を有しているとする実に興味深い研究も紹介されている。そしてそんな発酵食を長い歴史の中で培ってきた信州の豊かな食文化が具体的に詳解されている。長野県の発酵食と聞くと、漠然と信州味噌や野沢菜等の漬物が思い浮かぶが、続いて、そんな発酵食文化の担い手である長野の老舗企業が取材されている。最後に、料理研究家である横山タカ子氏による信州の台所発の発酵レシピが紹介される。

2013年に「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたが、小泉氏は「食を研究している私には和食の原点が長野県にあるように見える」と述べている。

◆ 1296円・Ａ５判・127頁・**しなのき書房**・長野・2016/1刊・ISBN・9784903002491

『人間の条件１９４２　－誰が中国の飢餓難民を救ったか』●劉　震雲著／劉　燕子訳



1940年代の中国は、国民党、共産党、日米英などが入り乱れ、政治情勢は錯綜し、社会は複雑を極めていた。そのような時、河南省は大旱魃とそれに続く未曽有の蝗害で、人口３千万の内、３百万の餓死者と３百万の難民を発生させ、生きるどころか、人間らしく死ぬことすらもできない凄惨な状況に見舞われた。だが国民党政府は、それに目をつぶったばかりか、過酷な課税や軍糧の徴収を続けた。この絶望的な事態を救ったのは、皮肉にも侵攻してきた日本軍による食糧放出であった。人道的見地からではなく、戦略的意図であったが、それでも多くの命を救った。その史実を追った実録小説と、2012年に映画化されたシナリオを収録する。1993年に原著『温故1942』が発表されて以来、中国で大きな論争を呼んでいるが、決して日本軍や戦争を美化したものではない。タブーの封印を解き、民衆の生活が歴史を変え、創り出すものであることを、この小説は伝えている。

◆ 1836円・四六判・361頁・**中国書店（集広舎）**・福岡・2016/1刊・ISBN・9784904213377

『ケンパーマンの明治７年神道報告　－あるドイツ人の明治初期「日本学」事始め』●長沢　敬訳・解説

東京のドイツ領事館通訳だったペーター・ケンパーマンが明治７年に発表した『カミの教えについての報告』について、訳者の長沢敬氏は、まったく無名のこのドイツ人の神道研究報告書が、著名なアーネスト・サトウの神道関連論文と同様、外国人による神道研究の先駆けであったとしている。その内容を読み解いてみると、仏教や儒教の影響以前の素朴な元の信仰が今や失われているといった論調が窺える。この純粋な古神道への外国人の関心はどこから来るのか。訳者は、ケンパーマンに神道を教示した平田派国学者の影響を指摘しているが、本書に収められているケンパーマンのもう一つの論文『コレアと日本に関する報告』を読むとその理由を見出せる。そこでは、今ではその真実性が疑われている神代文字とハングルの類似性を根拠にしながら、仏教や儒教の影響以前の朝鮮半島の信仰・文化と日本のそれが同型であると推論している。つまりケンパーマンの純粋な古神道への情熱は、日本人の由来を朝鮮半島に求める人類学的関心に基づいていたわけである。

◆ 1944円・Ａ５判・175頁・**今井出版**・鳥取・2015/12刊・ISBN・9784866110080

売行良好書　期間：2016年2月15日～3月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『へろへろ　雑誌「ヨレヨレ」と「宅老所よりあい」の人々』1620円・ナナロク社　(2)『鮎川義介　日産コンツェルンを作った男』2376円・弦書房　(3)『ピアノの巨人　豊増昇』1836円・小澤昔ばなし研究所　(4)『かっこいい大人から学ぶ愛と勇気』1620円・ＥＨ情報システム　(5)『九州　男の隠れ湯　３００湯』1620円・書肆侃侃房　(6)『大村智博士の一期一会』1620円・山梨日日新聞社　(7)『悲しみの秘義』1728円・ナナロク社　(8)『国東六郷満山』1944円・木星舎　(9)『出産・育児ママのトリセツ』1512円・忘羊社　(10)『石田三成の青春』1836円・サンライズ出版　(11)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(12)『アルコール依存症を知る！』1080円・アスクヒューマン・ケア　(13)『信州の発酵食』1296円・しなのき書房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『円』339円・暗黒通信団　(2)『三角形』360円・暗黒通信団　(3)『東京かわら版　４月号』500円・東京かわら版　(4)『本の雑誌　３９４号』720円・本の雑誌社　(5)『円周率１０００００００桁表』339円・暗黒通信団　(6)『極東セレナーデ』1836円・フリースタイル　(7)『へろへろ』1620円・ナナロク社　(8)『５０代からのアイドル入門』1620円・本の雑誌社　(9)『図形の証明』324円・暗黒通信団　(10)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『ピアノの巨人　豊増昇』1836円・小澤昔ばなし研究所　(2)『那覇の市場で古本屋』1728円・ボーダーインク　(3)『奥武蔵登山詳細図　武甲山・武川岳・伊豆ヶ岳・丸山　全１３０コース』950円・吉備人出版　(4)『かわいい海とかわいくない海　ｅｎｄ.』2052円・書肆侃侃房　(5)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(6)『奥多摩東部登山詳細図　全８８コース』823円・吉備人出版　(7)『黄禍』2916円・中国書店（集広舎）　(8)『宮本常一の風景をあるく　周防大島久賀・橘・大島』2700円・みずのわ出版　(9)『イタリア都市の空間人類学』3780円・弦書房　(10)『東京の川を歩く』3024円・さきたま出版会

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼1949年から実施されてきた、日本図書館協会がやっている「**選定図書速報**」という事業があります。図書館員が本を選ぶ基準の一つとして重要な役割を果たしてきました。「選定図書速報」と「選定図書総目録」という形で発信され、同時に、出版情報紙「読書人」に「日本図書館協会選定図書週報」として掲載されてきました。ここに選定された本は出版社にとっても著者にとっても名誉であり、経済的意味も大きかったと思います。しかし昨今は、この選定速報は図書館に於いてあまり利用されない状況で、また「選定図書目録」の購入機関も減少し、採算をとるのが難しくなっているとのことで、この3月末でこの業務を終了させるという通知を出版各社、業界関係者に送っています。この事業は66年間で通算2990回(3月30日発行号)になります。

▼松山の地方出版社、アトラス出版の中村幸男氏が急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。出版事業はご家族が引き継がれるとのことです。

※先月号の当欄で建石修志氏のお名前を「立石修志」と誤って表記いたしました。お詫びして訂正いたします。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。

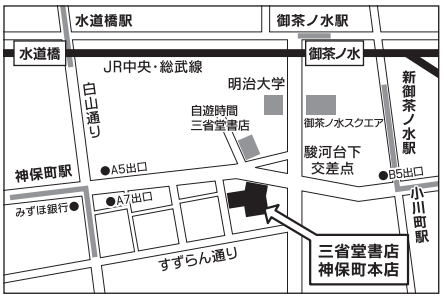
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。